

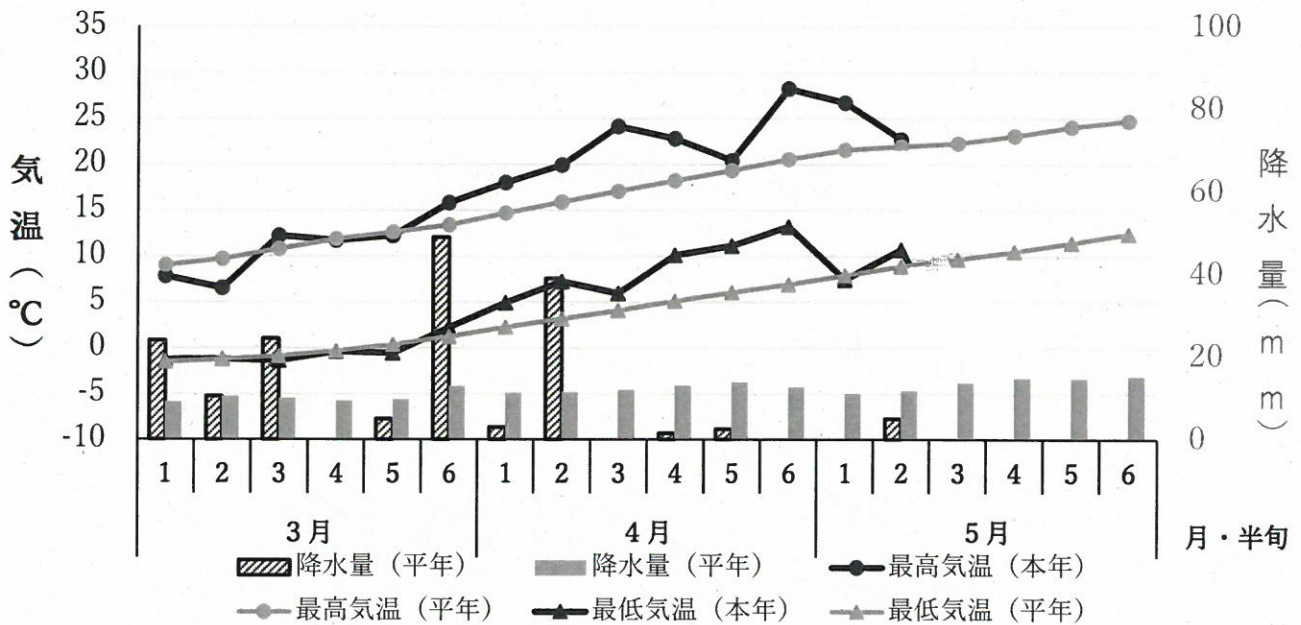
雨よけ・露地きゅうりの栽培管理

令和6年5月 日

J A ふくしま未来伊達地区本部／伊達農業普及所



気象経過と今後の見通し(仙台管区气象台 令和6年5月16日発表)



【1ヶ月予報】

天候：天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温：向こう1か月の気温は高いでしょう。1週目は高い、2週目は高い、3～4週目も高い見込み。

降水量・日照時間：ほぼ平年並の見込み。

【3ヶ月予報】

5月：天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は高い見込みです。

6月：前半の天気は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は平年並か高い見込みです。

7月：平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温はほぼ平年並または高い見込みです。

降水量は、5. 6月は平年並で7月は多い見込みです。

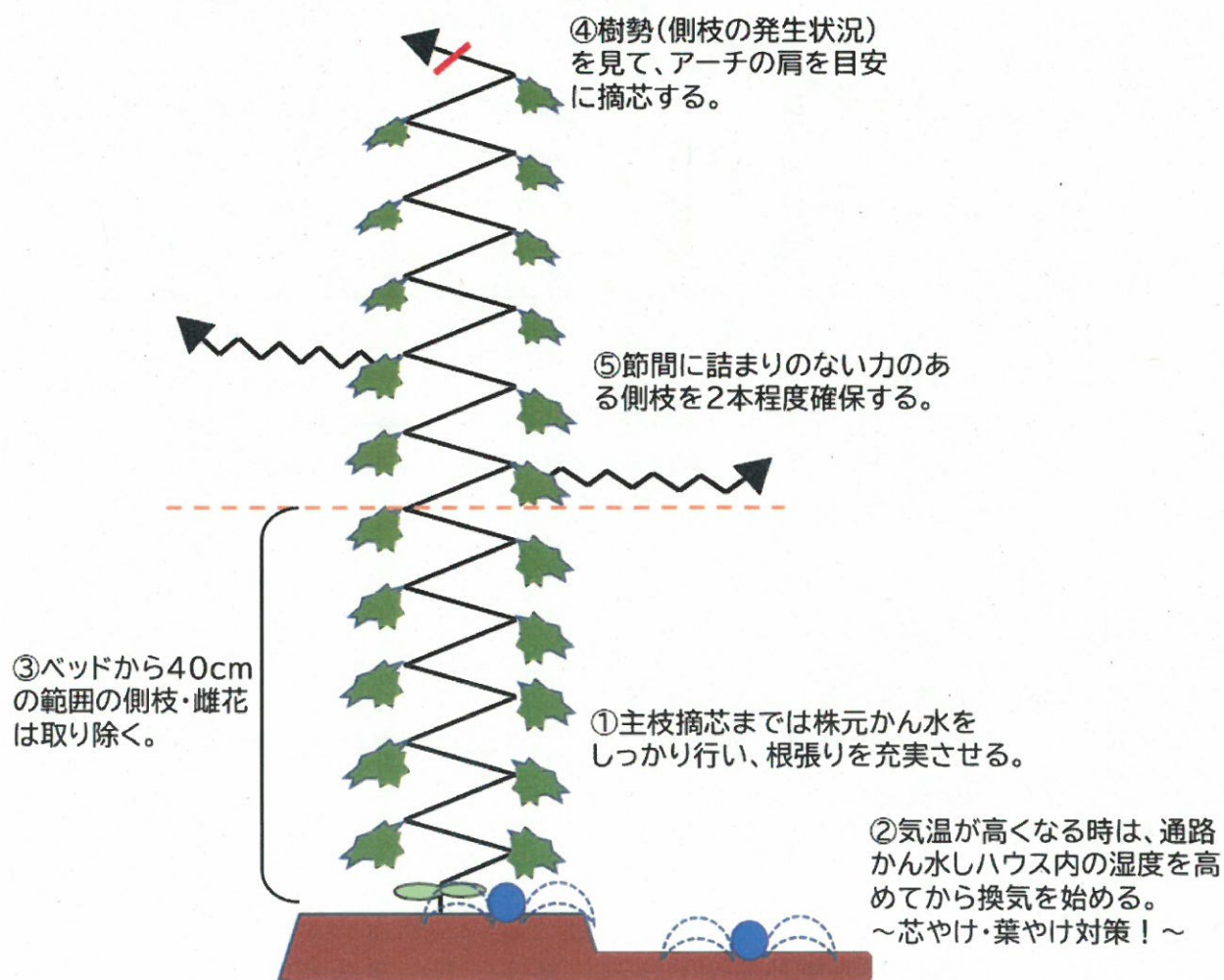
雨よけきゅうりの栽培管理



管理のポイント

- ① 主枝摘芯までは株周りの土が乾かないように株元に手かん水する。
- ② 昼と夜の温度の差が大きいため、『芯焼け・葉焼け』に注意しながら換気管理を行う。
- ③ 梅雨期に高温の可能性があるので、病害の早期発見に努め発病初期に防除を行う。

1 これからの管理 ～主枝摘芯までは『樹づくり』～



- ① 気温が高くなる予報の日は、20℃でサイド換気を始める。→芯焼け・葉焼け対策参照
- ② 主枝の節間がスッと伸びてきてから、力強い側枝を1～2本確保する。
- ③ 主枝の摘芯はアーチの肩に届く頃が目安だが、側枝の発生状況を見てタイミング良く摘芯する。側枝の力強い生長点が3～4本ある状態で摘芯する。
- ④ 温度管理

午前	午後	夕方	夜間
25～30℃	23～25℃	14～17℃	12℃

2 芯焼け・葉焼け対策 ～発生する要因と対策～

(1) 晴天日に一気に換気を始めた時

【発生するしくみ】

晴天日、ハウス内が高温になってからあわてて全面換気を行うと、ハウス内の湿度が急激に低下してしまう。

【対策】

- ①ハウス内気温が20℃になる前に、妻窓を開けるか風下側サイドを10cm程度開けて換気を始め、湿度の急変を防止する。
- ②開け遅れて気温が上昇してしまった場合は、通路にかん水を行い、ハウス内の湿度を確保した上で少しずつ換気する。

(2) ①主枝摘芯前で根張りが十分でない時。②ハウス内の乾燥や高温が続いた時。③着果負担が続いて草勢が低下している時

【発生するしくみ】

根からの水分吸収が十分にできないため、葉からの蒸散スピードに追いつかない。

【対策】

- ①主枝摘芯前：根張り（根の量）を確保するため、活着までの株元手かん水を徹底するとともに、ベッド内の水分も確保する。その際に発根促進剤（アミハート、新チャンス液等）を併せて施用する。
- ②ベッド肩や通路へもかん水・施肥を積極的に行う。少量多回数のかん水を心がけ、日中もかん水する。
- ③発根促進剤（アミハート、新チャンス液など）と併せて追肥（トミーエボリューション、液体ジャンプなど）を行い、草勢を回復させる。

(3) 梅雨期の合間に晴れた時

【発生するしくみ】

曇雨天日が続くと、光合成ができず葉が軟弱に生育する（葉が柔らかく厚みがない状態）。そのような状態の時に晴天になると、葉からの急激な蒸散に根の吸水が追いつかない。

【対策】

蒸散抑制資材（プロテックα）の散布や、保水力向上資材（アイスバリア）等を晴天が見込まれる前に散布する。

3 摘果・葉かき・整枝

(1) 摘果

- ①ベッドから高さ40cmの範囲には実をつけない。
- ②主枝の連続着果・ダブル着果は草勢低下につながるので、開花前に摘果する。
- ③不良果は、できるだけ小さいうちに摘果する。

(2) 葉かき

- ①本葉15枚頃になったら、主枝の下葉2枚程度を除去し葉かきを始める。
- ②本葉18～20枚頃に、下葉5枚程度を2回に分けて除去し通風をよくする。
- ③下葉、古葉、病葉に限らず、節間が詰まっている等で繁茂している部分や、側枝伸

長の邪魔になっている葉も積極的に摘葉する。

④葉かきした葉は、ほ場外に持ち出して処分する。

(3) 整枝

①本葉10～12枚頃に、ベッドからの高さ約40～50cmまでの側枝を2回に分けて除去する。

②主枝10節頃の側枝を1本残して力枝とし、草勢を維持する。
(節間がスッと伸びてきた以降の節から発生した側枝が理想)

③力枝以外の側枝は、1～2節止めを基本とする。

④主枝摘芯時は、側枝の生長点を3～4本程度確保した状態で行う。

4 かん水と追肥

(1) かん水 ～耐病性品種は乾燥に弱い！積極的にかん水しよう～

生育 ステージ	かん水方法	かん水量 の目安
活着頃まで	株元中心にベッド内へかん水する。晴天日が続くようであれば、土の乾きがないように一日数回かん水する。 さらに、空気中の湿度確保のため通路へもかん水する。	
主枝摘芯まで	徐々に通路側にかん水位置をずらす。(根張りの先端をねらう) ※晴天日が続くようであれば、株元が乾かないようにかん水する。	生育初期 1日1株当たり 400～500cc
収穫期	徐々にかん水量を増やす。 吸水量は朝夕少なく日中多くなるので、日中のかん水量を多くする。	収穫開始頃 1日1株当たり 1.5～2リットル

(2) 追肥 ～側枝収穫が始まったら追肥はこまめに～

1回目の追肥	主枝の雌花の開花～肥大始め頃から 窒素成分で0.5kg/10a
本格的な追肥開始	子づるの果実肥大期頃から 窒素成分で0.5～1kg/10aを5～10日間隔
収穫開始期以降	収穫量に合わせて施肥間隔を調整する。特に収穫最盛期は遅れずに追肥する。 収穫量約500kg/10aごとに窒素成分で2～3kg/10a
着果負担で草勢が低下した時、梅雨時期の生育不良の時	リン酸、カリ、苦土などの補給として、アミノメリット青+グリーンセーブプラスの葉面散布を行う。またトミー液肥グリーン、トミー液肥エボリューションなどの液肥を施用する。

露地きゅうりの栽培管理



管理のポイント

- ① 収穫開始までにどれだけ根を張らせられるか、根量確保を意識して管理する。
- ② 本葉8枚までは活着を促すため、株元手かん水をしっかりと行う。
- ③ 梅雨期に高温の可能性があるので、降雨前後の薬剤散布を徹底する。

1 収穫の決めては根張り！



定植苗(購入苗)～断根さし接ぎの苗を解剖してみる～

○断根さし接ぎの苗の特徴は、『台木の根が不定根』であること。



穂木のきゅうりを支えるのは
かぼちゃの不定根

- ☞ セルトレイの培土からポットの培土へ根が伸びているか。
- ▶ 伸びが悪い時は、かん水や液肥、発根促進剤を与える。

接ぎ木をしてセルに挿した時の
セルトレイの培土

セルトレイから鉢上げ移植時の培土

- ☞ セルトレイの培土とポット培土がなじんでいるか。どちらかの培土が明らかに乾いている場合は、根の発生が悪くなるので水をかけてなじませる。
- ▶ 使用されている培土の多くは、一度乾くと水を吸収しにくくなるので、確実に水を吸わせることがコツ。

かぼちゃの直根は『ない』

- ☞ 断根さし接ぎのかぼちゃの根(不定根)は、横に伸びてから、細かい根が下に伸びる。
- ▶ 育苗～定植後活着までは、株元に近い表層の土を乾かさないようにするのが、根の伸長を促すコツ。

苗が届いたら

- ① ほ場の環境にならす(2～3日程度)。
- ② 水をかける(ポットの土が、水をはじかなくなるまでしっかりかける)。
- ③ 定植前に根張りを良くするためにうすめた液肥(闘根242など)にどぶ漬けする。

2 これからの管理

雨よけきゅうりに準じて管理をする。

病虫害防除

●害虫防除を徹底しよう！

アブラムシ類の発生が見られています。ウィルス症状が見られる場合は、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

乾燥傾向が続く場合は、ハダニ類、アザミウマ類の発生にも注意してください。

●JAの令和6年度版野菜病虫害防除基準を参照すること。

作用機構コード『4A』の農薬の連用を避けましょう。

防除基準の殺虫剤の表の中の「作用機構コード」に『4A』と記載されている農薬（例えば、アクタラ顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤、ベストガード水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤など）は、アブラムシ類に抵抗性がつきやすくなっているため、作用機構コード『4A』のものを連用しない。

異なる作用機構コードのものとローテーションを組んで使用してください。

『アドマイヤー』は定植後の露地栽培には使用できません。

アドマイヤー水和剤、アドマイヤー顆粒水和剤、アドマイヤーフロアブルは、農薬登録の内容が変更となり、施設栽培のみの使用となりました。

露地栽培では使用できないので、注意してください。

※上記の農薬使用方法は、令和6年5月1日現在の登録内容に基づき編成しています。

普及所からのお知らせ

農業事故が発生しています。
作業前の点検をしっかりと行い、農作業安全に努めましょう。



暑さに慣れていない時期です。
適宜、休憩と水分補給をして、熱中症対策をしましょう。

農薬は、最新の農薬登録情報を確認して使用しましょう。
使用したときは速やかに記帳しましょう。



地域計画の策定や農地中間管理事業を活用し、地域農業を守りましょう。
収入保険制度・農業共済制度等を活用し、経営の安定を図りましょう。